

**A S E M外相会合全体会合1**  
**「多国間主義体制の再活性化:**  
**地球規模課題におけるASEMパートナーシップの促進」**  
**(仮訳)**  
(マドリード, 12月16日(月) 10:30~12:00)

議長, 各国大臣, 御列席の皆様,

日本は, 相対的に希薄であったアジア・欧州関係の強化が必要との, ASEMの考え方に賛同します。

私は, 外務大臣に就任して以来, 「包容力と力強さを兼ね備えた外交」を推進して参りました。国際社会の課題に対応していくため, 多様性を完全に尊重しつつ, 調整力を発揮していく。こうした日本外交の真価が試されるのは, 多様な国家から構成される, ASEM のような枠組みです。

このセッションの主題である多国間主義は, 国際社会の課題に対応し, ルールに基づく国際秩序を維持する上で, 重要な視座を与えてくれます。これに関し, 私からは, 2点述べさせていただきます。

第一に, 多国間主義が依拠する国際社会のルールや国際秩序を維持しつつ, これらを経済・社会の変化に対応できるものとしていくことが重要です。

本年, 日本は, G20 議長国として, 時代に即した新たなルール作りを主導してきました。その中には, 海洋プラスチックごみに関する「大阪ブルー・オシャン・ビジョン」, デジタル経済に関する「大阪トラック」, 「質の高いインフラ投資に関する G20 原則」が含まれます。また, 今年9月には, 日・EUの首脳間で, 連結性に関するパートナーシップを強調する文書に署名しました。

また, 日本は日 EU・EPA, TPP11, そして日米貿易協定を締結し, 経済分野での 21 世紀型の高い水準のルール作りに努めています。

第二に、「力」によって自らの主張を押し通すのではなく、共通のルールに則って、二国間及び多国間の問題を解決することが重要です。

北朝鮮による度重なる弾道ミサイル発射は、国連安保理決議違反であり、日本及び地域の安全保障を脅かしています。全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルのCVIDに向け、米朝プロセスを後押しすべく、国際社会が一体となって国連安保理決議の完全な履行を確保することが必要です。また、拉致問題は、日本の最重要課題。早期解決に向け、ASEM 各国の協力を呼びかけます。

南シナ海問題については、日本は現場の状況を深刻に懸念し、一方的な現状変更の試みや他国への威圧に強く反対し、係争中の地形の非軍事化と、国連海洋法条約等に従った紛争の平和的解決を、一貫して訴えてきました。

御列席の皆様、

来年、日本はオリンピック・パラリンピックを東京で開催し、ASEM 各国からも多くのアスリートに参加いただけることを楽しみにしています。スポーツは、それぞれの種目のルールに基づいて選手が互いに競い合うものです。同様に国際関係においても、全ての国が、ルールに基づく国際秩序を発展させていくことが重要です。日本は、ASEM としてそのような秩序の発展・強化に向けて、一つの声になれるよう、引き続き役割を果たしていきます。

(了)